



2022年度夏季海外研修 BEVI-j分析結果

Discover your potential

SOKA University



■ 測定する「17の尺度」および「7領域」

i. 妥当性 (Validity Scales)

- Consistency (一貫性): 類似又は同一の内容を測っているが表現の異なる質問項目に対する、回答の一貫性
- Congruency (適合性): 統計的に推定できる回答パターンとの、回答の一致の程度

【高】・【低】と表示した尺度はフルスケールスコア (BEVIが測定しようとする「中心的な本質」の全体スコア)算出の際の重み付けに利用
BEVI自体はスコアの高低について価値判断をしない(例えば宗教)。ただし、大学また教員は価値判断を行う (EX: 14のスコアが高い人はジェンダーの考えが保守的)

ii. 形成的因子 (Formative Variables)

1. Negative Life Events (人生における負の出来事): 困難な子ども時代、問題を抱えていた両親、人生における葛藤/苦悶、多くの後悔

iii. 中核的欲求の満足度 (Fulfillment of Core Needs)

2. Needs Closure (欲求の抑圧): 不幸な生い立ち/生活史、いさかしの多い不安定な家族構造、物事が起こる原因・状態の原因についてのステレオタイプの思考/筋が通らない説明
3. Needs Fulfillment (欲求の達成) 【高】: 経験・欲求・感情に対してオープン、自分・他者・より広い世界に対する気遣い/思いやり
4. Identity Diffusion (アイデンティティへの否定的な度合い): アイデンティティの危機、結婚生活/家族生活についての否定的宿命論、自分や将来に対する「否定的な」感情

iv. 不均衡の許容 (Tolerance of Disequilibrium)

5. Basic Openness (基本的な開放性) 【高】: 基本的な思考、感情、欲求に対してオープンかつ率直
6. Self Certitude (自分に対する確信) 【低】: 強い意志、困難に対し言い訳することが我慢できない、ポジティブ思考を強調する、深い分析を好まない

v. 批判的思考 (Critical Thinking)

7. Basic Determinism (決定論・必然論的傾向) 【低】: 差異/行動について簡潔な説明を好む、人は変わらない/強者が生き残ると信じている、苦勞の多い生活史
8. Socioemotional Convergence (社会・情動の理解): 自己、他者、より広い世界を認識している/オープンである、思慮深く、実用主義、意思が固い、自立の必要性を認める一方で弱者を気遣うなど世界を白黒では捉えない

vi. 自己の理解・アクセス (Self Access)

9. Physical Resonance (身体への共鳴): 身体的欲求/感情の受容、経験主義、人間性/進化の影響を評価する (例: 「私は自由な精神の持ち主だ」、「私の体は私の感情に敏感だ」など)
10. Emotional Attunement (感情の調整) 【高】: 感情に動かされやすい、傷つきやすい、社会的、愛情を求めている、親和的、愛情表現に価値を置く、家族関係が親密
11. Self Awareness (自己認識) 【高】: 内省的、自己の複雑性を受け入れる、人の経験/状態を気遣う、難しい思考/感情を許容する
12. Meaning Quest (意味の探求): 物事の意味を模索する、人生にバランスを求める、耐性がある/根拠が強い、感受性が高い、弱者への思いやり

vii. 他者の理解・アクセス (Other Access)

13. Religious Traditionalism (宗教的伝統主義、信仰心) 【低】: 宗教心があつい、自己/行動/出来事を神/霊的な力によるものとする、「来世」を信じる
14. Gender traditionalism (ジェンダー的伝統主義) 【低】: 男性と女性はある型にはまるよう創られている、伝統的/単純なジェンダー観やジェンダーの役割を好む
15. Sociocultural Openness (社会文化的オープン性) 【高】: 文化、経済、教育、環境、ジェンダー/国際関係、政治の分野におけるさまざまな行動、政策及び実践について進歩的/オープンである

viii. 世界の理解 (Global Access)

16. Ecological Resonance (生態との共鳴) 【高】: 環境/持続可能性の問題に深く関与している。地球/自然界の将来を懸念している
17. Global Resonance (世界との共鳴) 【高】: さまざまな個人、集団、言語、文化について学ぶこと/出会うことを努力している。グローバル社会への関与を望んでいる

グループ平均 (まとめ)

- 色付けされている尺度が、フルスケールスコアと呼ばれるものであり、BEVIが測定しようとしている、基本的な開放性、異文化への許容性、宗教的また社会的実践、ステレオタイプな思考の許容 (またはその否定)、「自己」と感情認識、また他の人々や文化がなぜそのように行動するのかを説明しようとする思考パターンなどの「中心的な本質」の全体スコアをあらわします。

- 緑色に変化がなかった尺度、赤色がフルスケールスコアを減少させた尺度、青色がフルスケールスコアを増加させた尺度を表します。

- フルスケールスコア以外の尺度については、すべて一律で黒色になっています。

グループ平均 国際部主催研修（まとめ）

研修名	②形成的因子 (Formative Variables)	③中核的欲求の満足度 (Fulfillment of Core Needs)	④不均衡の許容 (Tolerance of Disequilibrium)	⑤批判的思考 (Critical Thinking)
国際部 ジョージア州立 大学研修	自身の生き立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対するオープンさに変化がなかった。(尺度3) ・将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な思考、感情、欲求に対するオープンさは変化がなかった。(尺度5) ・物事を決めつける思考の度合いに変化はなかった。(尺度6) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとは変わらないなどの決定論的思考が弱くなった。(尺度7) ・より広い世界への認識に変化はなく、弱者を気遣うなどの配慮の度合いに変化はなかった。(尺度8)
国際部 グリフィス大学 研修	自身の生き立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対するオープンさに変化がなかった。(尺度3) ・将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な思考、感情、欲求に対するオープンさは変化がなかった。(尺度5) ・物事を決めつける思考の度合いに変化はなかった。(尺度6) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとは変わらないなどの決定論的思考の度合いに変化はなかった。(尺度7) ・より広い世界への認識に変化はなく、弱者を気遣うなどの配慮の度合いに変化はなかった。(尺度8)

グループ平均 国際部主催研修（まとめ）

研修名	⑥自己の理解・アクセス (Self Access)	⑦他者の理解・アクセス (Other Access)	⑧世界の理解 (Global Access)
国際部 ジョージア州立 大学研修	<ul style="list-style-type: none"> ・身体的欲求を受入るようになった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置く度合いは変化がなかった。(尺度10) ・自己の複雑性を許容し難くなった。(尺度11) ・意味を模索する度合いに変化はなかった。(尺度12) 	<ul style="list-style-type: none"> ・宗教的伝統主義に対する考え方に変化はなかった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考が弱くなった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさが増加した。(尺度15) 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題への共感、自然界の将来への懸念に変化はなかった。(尺度16) ・グローバル社会への関心が増加した。(尺度17)
国際部 グリフィス大学 研修	<ul style="list-style-type: none"> ・身体的欲求を受入るようになった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置く度合いは変化がなかった。(尺度10) ・自己の複雑性を許容できるようになった。(尺度11) ・意味を模索する度合いに変化はなかった。(尺度12) 	<ul style="list-style-type: none"> ・宗教的伝統主義の思考が弱くなった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさが増加した。(尺度15) 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題への共感、自然界の将来への懸念に変化はなかった。(尺度16) ・グローバル社会への関心に変化はなかった。(尺度17)

グループ平均 WLC/GCP主催研修（まとめ）

研修名	②形成的因子 (Formative Variables)	③中核的欲求の満足度 (Fulfillment of Core Needs)	④不均衡の許容 (Tolerance of Disequilibrium)	⑤批判的思考 (Critical Thinking)
WLC イースト大学研修 (1期)	自身の生き立ちが困難であったとの認識が弱くなった。(尺度1)	・家庭環境や生活への欲求を抑圧しなくなった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対するオープンさに変化がなかった。(尺度3) ・将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4)	・基本的な思考、感情、欲求に対してのオープンさは変化がなかった。(尺度5) ・物事を決めつける思考が強くなった。(尺度6)	・ひとは変わらないなどの決定論的思考が弱くなった。(尺度7) ・より広い世界への認識が強くなり、弱者を気遣うなどの配慮ができるようになった。(尺度8)
WLC イースト大学研修 (2期)	自身の生き立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	・家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対するオープンさに変化がなかった。(尺度3) ・将来への否定的な感情が増加した。(尺度4)	・基本的な思考、感情、欲求に対するオープンさが減少した。(尺度5) ・物事を決めつける思考が強くなった。(尺度6)	・ひとは変わらないなどの決定論的思考が弱くなった。(尺度7) ・より広い世界への認識が強くなり、弱者を気遣うなどの配慮ができるようになった。(尺度8)
GCP フィリピン研修	自身の生き立ちが困難であったとの認識が弱くなった。(尺度1)	・家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対する感情をオープンにするようになった。(尺度3) ・将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4)	・基本的な思考、感情、欲求に対するオープンさが減少した。(尺度5) ・物事を決めつける思考が弱くなった。(尺度6)	・ひとは変わらないなどの決定論的思考の度合いに変化はなかった。(尺度7) ・より広い世界への認識が強くなり、弱者を気遣うなどの配慮ができるようになった。(尺度8)

グループ平均 WLC/GCP主催研修（まとめ）

研修名	⑥自己の理解・アクセス (Self Access)	⑦他者の理解・アクセス (Other Access)	⑧世界の理解 (Global Access)
WLC イースト大学研修 (1期)	・身体的欲求の受入には変化がなかった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置く度合いは変化がなかった。(尺度10) ・自己の複雑性の許容には変化がなかった。(尺度11) ・意味を模索する度合いに変化はなかった。(尺度12)	・宗教的伝統主義に対する考え方に変化はなかった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさが増加した。(尺度15)	・環境問題への共感が弱くなり、自然界の将来への懸念が減少した。(尺度16) ・グローバル社会への関心が増加した。(尺度17)
WLC イースト大学研修 (2期)	・身体的欲求の受入には変化がなかった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置く度合いは変化がなかった。(尺度10) ・自己の複雑性の許容には変化がなかった。(尺度11) ・意味を模索する度合いに変化はなかった。(尺度12)	・宗教的伝統主義に対する考え方に変化はなかった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさが増加した。(尺度15)	・環境問題への共感が強くなり、自然界の将来への懸念が増加した。(尺度16) ・グローバル社会への関心が増加した。(尺度17)
GCP フィリピン研修	・身体的欲求の受入には変化がなかった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置く度合いは変化がなかった。(尺度10) ・自己の複雑性の許容には変化がなかった。(尺度11) ・意味を模索する度合いに変化はなかった。(尺度12)	・宗教的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさには変化がなかった。(尺度15)	・環境問題への共感が強くなり、自然界の将来への懸念が増加した。(尺度16) ・グローバル社会への関心が増加した。(尺度17)

グループ平均 経営・理工学部主催研修（まとめ）

研修名	②形成的因子 (Formative Variables)	③中核的欲求の満足度 (Fulfillment of Core Needs)	④不均衡の許容 (Tolerance of Disequilibrium)	⑤批判的思考 (Critical Thinking)
経営学部 GPカナダ	自身の生い立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	・家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対する感情を抑えるようになった。(尺度3) ・将来への否定的な感情が増加した。(尺度4)	・基本的な思考、感情、欲求に対するオープンさが減少した。(尺度5) ・物事を決めつける思考が弱くなった。(尺度6)	・ひとは変わらないなどの決定論的思考が弱くなった。(尺度7) ・より広い世界への認識が弱くなり、弱者を気遣うなどの配慮が乏しくなった。(尺度8)
経営学部 GPオンライン	自身の生い立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	・家庭環境や生活への欲求を抑圧するようになった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対するオープンさに変化がなかった。(尺度3) ・将来への否定的な感情が減少した。(尺度4)	・基本的な思考、感情、欲求に対するオープンさが増加した。(尺度5) ・物事を決めつける思考が弱くなった。(尺度6)	・ひとは変わらないなどの決定論的思考の度合いに変化はなかった。(尺度7) ・より広い世界への認識に変化はなく、弱者を気遣うなどの配慮の度合いに変化はなかった。(尺度8)
理工学部 国際技術力EP インドネシア	自身の生い立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	・家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対する感情をオープンにするようになった。(尺度3) ・将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4)	・基本的な思考、感情、欲求に対するオープンさは変化がなかった。(尺度5) ・物事を決めつける思考の度合いに変化はなかった。(尺度6)	・ひとは変わらないなどの決定論的思考の度合いに変化はなかった。(尺度7) ・より広い世界への認識が強くなり、弱者を気遣うなどの配慮ができるようになった。(尺度8)

グループ平均 経営・理工学部主催研修（まとめ）

研修名	⑥自己の理解・アクセス (Self Access)	⑦他者の理解・アクセス (Other Access)	⑧世界の理解 (Global Access)
経営学部 GPカナダ	・身体的欲求を受入するようになった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置かなくなった。(尺度10) ・自己の複雑性を許容し難くなった。(尺度11) ・意味を模索する度合いが減少した。(尺度12)	・宗教的伝統主義の思考が弱くなった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさが減少した。(尺度15)	・環境問題への共感が弱くなり、自然界の将来への懸念が減少した。(尺度16) ・グローバル社会への関心が減少した。(尺度17)
経営学部 GPオンライン	・身体的欲求を受入するようになった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置く度合いは変化がなかった。(尺度10) ・自己の複雑性の許容には変化がなかった。(尺度11) ・意味を模索する度合いに変化はなかった。(尺度12)	・宗教的伝統主義の思考が弱くなった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考が弱くなった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさには変化がなかった。(尺度15)	・環境問題への共感、自然界の将来への懸念に変化はなかった。(尺度16) ・グローバル社会への関心が減少した。(尺度17)
理工学部 国際技術力EP インドネシア	・身体的欲求を受入するようになった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置く度合いは変化がなかった。(尺度10) ・自己の複雑性の許容には変化がなかった。(尺度11) ・意味を模索する度合いに変化はなかった。(尺度12)	・宗教的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさには変化がなかった。(尺度15)	・環境問題への共感、自然界の将来への懸念に変化はなかった。(尺度16) ・グローバル社会への関心が増加した。(尺度17)

【国際部 ジョージア州立大学研修】 のBEVI-jによる分析

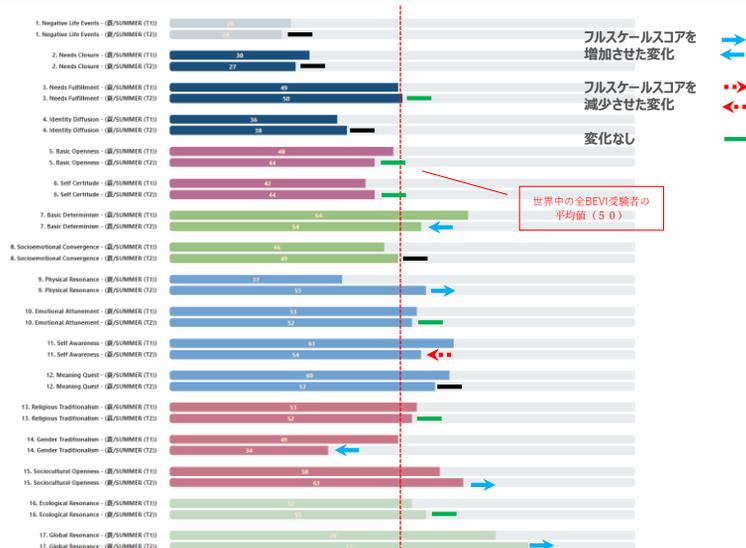
期間： 2022年7月31日～8月15日

参加者： 19名

研修目的： 語学・文化研修

研修内容： 生きた英語とアメリカ文化を学べる独自のプログラム。プログラムでは、午前中に実践的な英語を学び、午後にアトランタ市内の主要箇所を見学。プログラム実施中、日本語を学んでいるジョージア州立大学の学生がサポートに入り、会話を楽しみながら、日常的に生きた英語に触れることができる。実際の学生寮に滞在し、アメリカの大学生生活の体験が可能。

ジョージア州立大学研修 - Aggregate Profile (N=12)



【国際部 グリフィス大学研修】 のBEVI-Jによる分析

期間： 2022年7月27日～8月13日

参加者： 19名

研修目的： 語学研修

研修内容： 世界中から集う学生と共に、自分のレベルに合ったクラスで、英語を学ぶ研修。初級～中級レベルのクラスでは、Speaking, Listening, Reading, Writingの四技能とGrammar, Vocabulary, Pronunciationを学びます。上級レベルでは、四技能に加え、大学や仕事で活用できる学術英語を学びます。ホームステイあり。

グリフィス大学研修 - Aggregate Profile (N=15)



【WLC イースト大学研修（1期・2期） のBEVI-jによる分析

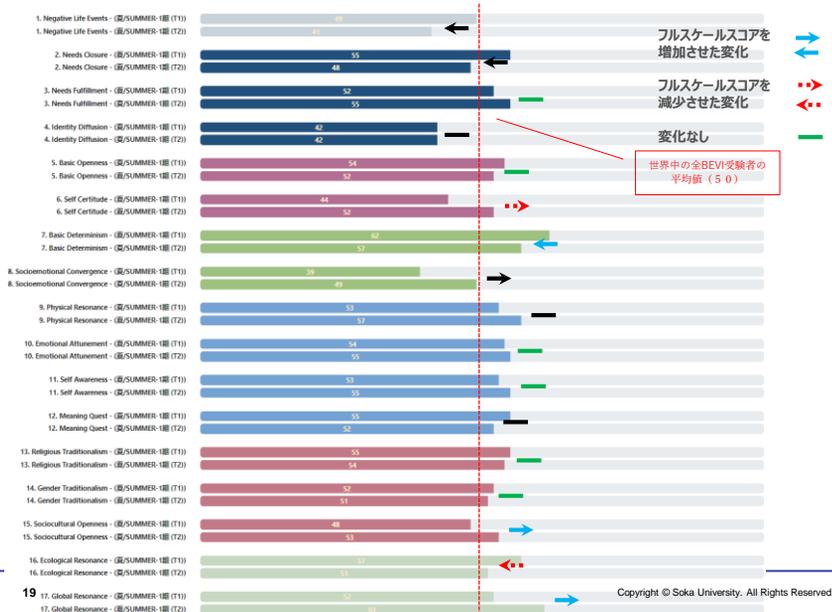
期間： 1期：2022年8月13日～8月24日
2期：2022年8月28日～9月7日

参加者： 1期：24名
2期：28名

研修目的： 語学研修

研修内容： 事前・事後 研修やオンライン での 対話・文化交流を通して、語学習得を目指す、イースト大学の英語教員と共同でカスタマイズした語学研修。

イースト大学研修（1期） - Aggregate Profile (N=18)



イースト大学研修（2期） - Aggregate Profile (N=19)



【GCP フィリピン研修】 のBEVI-jによる分析

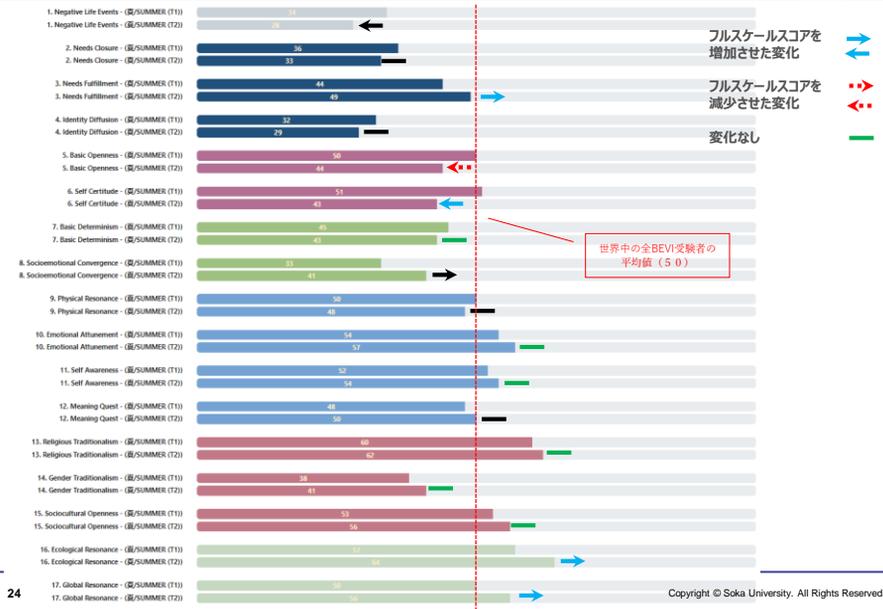
期間： 2022年8月29日～9月7日

参加者： 24名

研修目的： フィールドリサーチ等

研修内容： フィリピンの諸事情やグローバル化、開発途上国の問題に関する講義等。事前学習あり。

GCPファイリピン研修- Aggregate Profile (N=20)



【理工学部 国際技術力EP・インドネシア研修] のBEVI-jによる分析

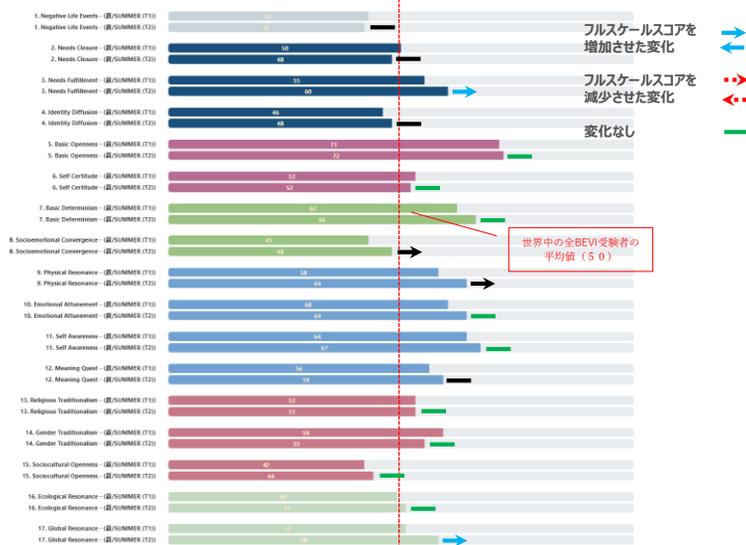
期間： 2022年8月6日～8月21日

参加者： 17名

研修目的： 理工学の基礎知識と工学技術を、発展途上国、新興国等へ展開できる国際性豊かな人材の育成。

研修内容： 英語コミュニケーションスキルの講義、文化交流および、国際技術協力に関する研修(インドネシア語と伝統文化・工芸の学習と生活体験、国際技術協力に関する講義とコミュニケーション、プレゼンテーション研修)、フィールドワーク。

国際技術協力EP・インドネシア研修 - Aggregate Profile (N=17)



33

Copyright © Soka University. All Rights Reserved.

まとめ

- ジョージア州立大学研修、グリフィス大学研修、イースト大学研修（1・2期）、GCPフィリピン研修、国際技術協力EPインドネシア研修については、国際性に関連する尺度（尺度15・17）は全体平均を見ると上昇傾向にあり、短期研修の効果が伺える。
- 元々のフルスケールスコア（コンピテンシー）の高さによって、国際性に関連する尺度の変化の度合い・方向が大きく異なる研修もあり、プログラム自体の組み立て方、また事前・事後の適した教育的介入を考えると、より効果のある研修になるのでは。
- 今回行った現地開催の研修に関しては、コロナの影響により隔離や帰国遅れという予期せぬ事態もあり、それが様々な尺度に大きく影響していることも考慮する必要がある。

35

Copyright © Soka University. All Rights Reserved.



SOKA University